会社の環境と勤務時間

自分のIDカードとパソコンの使い方

日本語のWindows７システムとキーボードにあまり慣れていない。

敬語と丁寧語をきちんと話せない。

卒業論文を日本語に翻訳することは非常に難しく感じた。

まず日本語のWindowsシステムに一日早くでもなれたいと思う。

プログラマの誇り（コンピュータのことをよく知っている）を取り戻す。

会社のルールを遵守する。

今日は私の仕事の最初の日で、分からないことがいっぱいあった。でも、楽しかったです。忙しい生活に戻り、皆さんの期待に応えたいと思う。自分の日本語能力はまだ不十分で、もっと力を入れなければならない。自分の意思に従って、どこに行っても怖くない、諦めないのは僕の強みだ。これからも、一生懸命がんばります。

１０月１１日

ほんやく

じゅんしゅ

プログラマ

いっしょうけんめい

身だしなみ

振る舞い方

プロフェッショナル

早起き早寝

寝つきがよい、目覚めがよい

くつろぐ

噛む　かむ　　ガム

ひげを剃って　そって　そる

襟　えり

フケ　头皮屑

叱られ上手は、育ちが早い

取り柄　とりえ　長所

割り勘　ワリカン

相手をねぎらう　　労う

フレーズ　　phrase

一日

二日

三日

四日

五日

六日

七日

八日

九日

十日

ついたち

ふつか

みっか

よっか

いつか

むいか

なのか

ようか

ここのか

とおか

はつか

一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ九つ十

一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ九つ十

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

一日二日三日四日五日六日七日八日九日十日　二十日

する

いる

来る

行く

言う

聞く

見る

書く

読む

食べる・飲む

もらう

与える

着る

持つ

分かる

自分が確かめたいことをメモしておき、最後にまとめて質問します。

考えておく。

なさいます　いたします

いらっしゃいます　おります

いらっしゃいます　お越しになります　まいります　うかがいます

いらっしゃいます　まいります　うかがいます

おっしゃいます　申します　申しあげます

お聞きになります　伺います　承ります

ご覧になります　拝見します

お書きになります　お書きします

お読みになります　拝読します

召し上がります　いただきます　頂戴します

いただきます　頂戴します

くださいます　たまわります　さしあげます　進呈します

召します

お持ちになります　お持ちします

承知しました　かしこまりました　うけたまわります　たまわります

空回る

**もみじ**

いらっしゃいませ

お待たせいたしました

しょうしょうお待ちください

かしこまりました

申し訳ございません

恐れ入ります

ありがとうございました

失礼いたします

メニューをご覧ください

メニューをご覧くださいませ

すぐ上の者が参ります。

男の人、女の人 → 男性の方、女性の方

年取った人 → ご年配の方

子供 → お子様

旦那さん、奥さん → 旦那様、奥様

一人 → おひとり様

一緒の人 → お連れ様

僕、わたし、自分 → わたくし

我々、私たち → わたくしども、当店

お待たせいたしました。和風ハンバーグでございます。

こちらがエビグラタンでございます

300円のお返しでごさいます

「5000円お預かりします。2500円のお返しでございます」

「5000円（ちょうど）頂戴します」

「ご注文を繰り返します。冷やし中華、餃子、チャーハンでよろしいでしょうか」

「お料理はすべて揃いましたでしょうか。」

「お待たせいたしました。デザートでございます。」

「お会計は、3200円でございます。」

注文は決まりましたか → ご注文はお決まりでいらっしゃいますか

ちょっと待ってください → 少々お待ちくださいませ

お待ちどうさま → お待たせいたしました

今持っていきます → ただ今お持ちいたします

ごめんなさい、すみません → 申し訳ございません、失礼いたしました、恐れ入ります

いくつですか／何人ですか → いくつになさいますか／何名様でしょうか

案内します → ご案内いたします

この席でよいですか → こちらの席でよろしいでしょうか

今満席です → ただ今満席でございます

トイレはまっすぐ行って右です → まっすぐ行かれて右手にございます

すぐ取り替えます → 申し訳ございません、ただいまお取替えいたします

こっちの間違いでした → 申し訳ございません。わたくしどもの手違いでした

味はどうですか → お味はいかがですか

下げてよいですか → お済みでしたらお下げしてよろしいでしょうか

そうです／そうします → さようでございます／そうさせていただきます

わかりました → かしこまりました

知っています → 存じております

その通りです → おっしゃる通りです

誰ですか → どちらさまでしょうか

これですね → こちらでございますね

私が聞きます → 私が（かわりに）おうかがいいたします

こっちでやります → わたくしどもでいたします

できません → わたしどもではいたしかねます

一分二分三分四分五分六分七分八分九分十分　十分

いっぱい

にはい

さんばい

よんはい

ごはい

ろっぱい

ななはい

はっぱい

きゅうはい

じゅっぱい

一分二分三分四分五分六分七分八分九分十分

一杯二杯三杯四杯五杯六杯七杯八杯九杯十杯

一本二本三本四本五本六本七本八本九本十本

一分二分三分四分五分六分七分八分九分十分

一杯二杯三杯四杯五杯六杯七杯八杯九杯十杯

一本二本三本四本五本六本七本八本九本十本

陽暦 陰暦

一月 睦月

二月 如月

三月 弥生

四月 卯月

五月 皐月

六月 水無月

七月 文月

八月 葉月

九月 長月

十月 神無月

十一月 霜月

十二月 師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

睦月如月弥生卯月皐月水無月文月葉月長月神無月霜月師走

アクセサリー

A(が)あってのB

N以外の何物ではない

N(の)いかんで・いかんによっては

いかんによらず・いかんをとわず

いざ～となると・となれば・となったら

今一つ～(ない)

言わずもがな

S(よ)うが・と

V(よ)うが・とVまいが・と

V(よ)うにもVない

ENDか否か

～限りだ(N)

Vたが最後・たら最後

Nかたがた

Nの・Vかたわら

N/V^がてら

Vが早いか

Nからある・からする・からの

Nの・V嫌いがある

Na極まる・極まりない

Nの・V(が)ごとき・ごとく・ごとし

Nごとき

～ことだし(N)

～こととて(N)

Vことなしに

Vことのないよう

～こともあって(N)

V始末だ

Nずくめ

Vずじまいだ

Vずにはおかない・ないではおかない

Vずにはすまない・ないではすまない

V術がない

N(で)すら

V・Vたそばから

V^そびれる

～のみならず(N)

~だけましだ(N)

ただ～のみだ

Vたところで

N・Vだに

Vたためしがない

Vたらきりがない・Vばきりがない

Nたりとも

Nたる・たるもの

V^つV^つ

Nであれ・であろうと

NであれNであれ・NであろうとNであろうと・NだろうがNだろうが

Vてからというもの

Vてしかるべきだ

Nでなくてなんだろう

V(た)の・Nでは(じゃ)あるまいし

～てはかなわない(て型)

VてはVては

Vてはばからない

～てはやりきれない(て型)

Vてまで

～ても差し支えない(て型)

V＾でもしたら

Vても知らない

Nでもって

Vてもどうにもならない・てもどうなるものでもない

～てもともとだ(て型)

Nでもなんでもない

Aくもなんともない

Vても始まらない

Vてやまない

NとNと(が)相まって

NがNと相まって

Nも相まって

V・A・Na・Nとあって

V・Nとあっては

V・A・Na・Nとあれば　　　　なら

NといいNといい

NというN

V・A・Na・NというかV・A・Na・Nというか

V・Nということだ・といったことだ

この・ここNというもの

V・A・Na・Nといえども

V・A・Na・Nと言えなくもない

V・A・Na・Nといったら(ありはし)ない・といったらありゃしない・…

これといって～ない

これという(いった)Nはない

NといわずNといわず

Nと(は)打って変わって

～かと思いきや

Nときたら

～とこらを(N)

Nとしたことが

V・A・Na・Nとしたって・としたところで・にしたところで・にしたって

最小量词として～ない　　　　　全然～ない

N(だ) ・Vたとて　　　　　　　としても

V・A・Na・Nとは・なんて

V・A・Na・Nとはいうものの・とは言い条

V・A・Na・Nとはいえ

V・V命令・A・Na・Nとばかりに

V・A・Na・Nとまではいかないが・とまではいかないとしても

V・A・Na・Nとまでは言わないが・とまでは言わないとしても

Nともあろうものが

Vともなく・ともなしに

V・Nともなると・ともなれば

Nと・にNを重ねて

～ないではない・ないでもない

Vないまでも

Vないものでもない

V^・Nながらに・の

～ながらも

Nなくして(は)

~なくはない・なくもない

～なしに・なしには・なしでは　　　～がないでは

Nならいざしらず

Nならでは(の)

Vなり

Nなりとも・なり何なりと

V・NなりV・Nなり

V・A・Na・Nなりに・なりの

V・Nに値する・に値しない

V・Nに(は)あたらない

Nにあって(は)・にあっても

V・Nに至って・に至る

V・Nに至っては

V・Nに至っても

V・Nに至るまで

Nに負うところが多い・に負うところが大きい

Nにおかれましては

Vに(は)及ばない

Nに(は)及ばない

Nに欠かせない・が欠かせない

Nにかかったら・にかかっては・にかかると

～か・Nにかかっている

Nに限ったことではない

Nにかこつけて

V・Nにかたくない

Nにかまけて

V・A・Na(である)・N(である)に越したことはない

V・Nにしくはない

Nにして

NにしてN

Nにしてはじめて

人にして～ない

Vに忍びない

Nに準じ・に準じて・に準じる

Nに即して・に即した・に則して・に則した

V・Nにたえる

Vにたえない

Nにたれない

V・Nに足りる・に足る

V・Nに足りない・に足らない

Nに照らして

N(だけ・のみ)にとどまらず

Nに則って

V・Nには無理がある

Nにひきかえ・ひきかえて

V・A・Na・Nにもほどがある

Nにもまして

Nによるところが大きい

Nの至りだ

Nの極みだ

V・A・Na・Nのなんの

(ただ)～のみならず・のみか

Nはおろか

～ばこそ

Nはさておき・はさておいて

Nの・Vた弾み

Nはそっちのけで・をそっちのけで

～ばそれまでだ。

～羽目になる・陥る(N)

Vべからず

VべからざるN

Vべし。

Vべく

VべくしてVた

Vべくもない

VまじきN

Nまでして

V・Vたまでだ・までのことだ。

Vまでもなく・までもない

Nまみれ

Nめく

Nも顧みず・を顧みず

Nもさることながら

Vた(の)・Nも同然だ・も同然の（どうぜん）

～ものと思われる

～ものを

Vや(否や)

Nの・V・Vた矢先に

V^やしない・はしない

やれN(だ)やれ(だ)

～(が)ゆえ(に)・ゆえの

V＾ようによっては

Nをおいて

Nを押して・を押し切って

Nを限りに

Nを皮切りに(して)

Nを機に

Nを禁じ得ない

Nを蔑ろにする（ないがしろ）

Nをなおざりにして　　　～をいいかげんにして

Nを控え・を控えて・を控えた

Nを踏まえ・を踏まえて

Nを振り出しに

Nを経て

Nをもって・をもちまして

Nをものともせずに

Nを余儀なくさせる

Nを余儀なくされる

Nをよそに

Vないんがため(に)・んがための

Vんじゃなかった

Nな・Naな・V・Aんだって・んですって

Vないんばかりに・んばかりの・んばかりだ

するー＞せん